



猿投地区豊田市合併 50 周年 記念式典

猿投地区が豊田市と合併してから50年となる節目の年に、猿投コミュニティセンターで記念式典が開かれました。記念シンポジウムやドローンを活用した映像上映、郷土芸能の披露など、様々な催しが行われた式典の様子をレポートします。

平成30年
3/24

猿投のこれから

民芸の森



狂言舞台での上演風景

民芸の森の敷地内には田舎家「青佳居（せいさいきょ）」や茶室「松近亭（しょうきんてい）」、狂言舞台のほか、陶磁のこま犬、日本で最古級のコンクリート製電信柱などのユニークな品々が点在している。入場無料で開館時間は午前9時から午後5時。月曜休み。



コンクリート製電信柱

平戸橋町に平成28年にオープンした「民芸の森」は、猿投地区出身の豊田市名誉市民・本多静雄氏の屋敷跡を市が整備した施設。本多氏の偉業を後世に伝えるとともに、豊田らしい民芸を育み、ここから発信していくとしている。

本多氏は電気通信事業と科学技術の向上に献身するとともに、古陶磁研究家として、陶磁器の研究に取り組んだ人物。猿投古窯の発見者としても知られ、貴重な資料や出土品の収集、研究により郷土文化の発展に貢献した。



田舎家「青佳居」



茶室「松近亭」

猿投地区豊田市合併50周年記念式典



学校出身の「ゆっこー」と、ラジオラブイート・パーソナリティの里園侑希さん（平戸橋町）の司会で式典が始まった。

挨拶に立った50周年記念事業実行委員会の天野弘治会長は、「猿投は豊田市と合併して土地改良事業、区画整理事業、産業誘致を行い、大きく発展してきました」と50年を振り返り、未来に向けて「安心、安全で安定した世の中を、今の世代も、将来を担っていく子どもたちも希望していると思います。そういう良い社会を築き上げるのが私たちの責任です」と話した。



県議会議員
鈴木雅博氏



衆議院議員
八木哲也氏



衆議院議員
古本伸一郎氏



市議会議長
三江弘海氏



豊田市長
太田稔彦氏



実行委員会会長
天野弘治氏



司会は
猿投地区出身の
里園侑希さん！



猿投地区豊田市合併50周年 記念式典 開催レポート

「猿投地区豊田市合併50周年記念式典」が平成30年3月24日の午前中に猿投コミュニティセンター体育館で開かれ、猿投5地域（井郷・石野・猿投・猿投台・保見）の住民や自治区役員・協賛企業、来賓など約600人が集まった。参

加者全員に記念品として紅白まんじゅうとクリアファイルが配られ、

会場内には猿投地区12校の小学生に募集した「未来のさなげ」の絵画作品

512点が展示された。

オープニングは猿投台ジュニア太鼓クラブ「和らい鼓」による太鼓演奏。猿投台中



猿投台 太鼓



式典の中盤には、ドローンで空撮した猿投5地域各所の映像を上映する時間もあった。

大人はそういう情報を絶えず子どもたちへ伝えていかなければなりません。住みよい猿投が豊田市のリーダーシップをとつて牽引役になつてください」と挨拶した。



石野 子ども歌舞伎



棒の手&太鼓

記念シンポジウムの終了後には、猿投地区で伝承されている郷土芸能が披露された。

最初に登場したのは、豊田市わくわく事業補助金を活用して設立された東保見町御殿万歳保存会。「忠臣蔵三段目 お輕 勘平」の裏門の段を披露した。続いて石野歌舞伎保存会が舞台に上がり、地元の園児から中学生が「白浪五人男」を演じた。

最後を飾ったのは豊田市棒の手保存会。旧猿投町で活動中の11団体がそれぞれの演技を披露した。また和太鼓鼓猿がコラボレーション演奏して棒の手隊の入場を盛り上げた。

式典後には猿投地区在住の市職員でつくる猿投会の皆さん、猿投コミュニティセンターの敷地内に桜の記念植樹を行った。

今回の記念式典を主催した50周年記念事業実行委員会は、猿投5地域の区長会長、猿投地区在住の市議会議員、豊田商工会議所猿投支所長、JAあいち豊田猿投金融共済ブロック長、豊田市地域振興部長、猿投会会長で構成され、式典開催に向けて準備してきた。地元企業135社からの温かい協賛金もあって盛大に開催できた。

この桜が咲く頃
どんな猿投になっているのでしょうか?



式典の後半には「新たなまちづくりについて考える」と題して、記念シンポジウムも開かれた。コーディネーターは(株)対話計画代表の藤森幹人さん(長久手市)。平戸橋町の「民芸の森」、故・本多静雄氏の屋敷跡、事業に深く関わってきた人だ。パネリストの3人は各分野に詳しい専門家の皆さんだった。

「自然分野」のパネリストは、豊田市自然愛護協会の元会長で、現在は同会顧問を務める鈴木勝己さん(城見町)が務めた。鈴木さんはラムサール条約に登録された3か所の湿地(上高、恩真寺、矢並湿地)の重要性を紹介。絶滅危惧種の「オキナグサ」や「ヒメナエ」などについても話し、猿投の豊かな自然の保護を提唱した。

「歴史分野」のパネリストは豊田土地改良区資料室長の達(つじ)志保さん(あま市)。枝下用水や矢作川の変遷に詳しい研究者だ。達さんは枝下用水がかつて地元住民の生活用水であり、プール代わりでもあったことを話した。また、勘八峠一帯が観光名所としてにぎわい、桜の季節には平戸橋駅前通りが大勢の観光客であふれていた時代のことも紹介。当時の写真が映し出されると

豊田勘八や豊田藤岡インター、江戸川の基盤整備が猿投地区の人口増につながった」と話した。また昭和末期から平成初期にかけての豊田市運動公園の完成や、西広瀬工業団地の開発なども説明し、最後に「東海環状自動車道の豊田勘八や豊田藤岡インター、江戸川を生かしたまちづくりも大切ではないでしょうか」と提案していた。

「都市基盤分野」のパネリストは、豊田市役所の元建設部長で、現在は市議会議員を務めている羽根田利明さん(加納町)。都市基盤整備の50年のあゆみを語るなかで、「名鉄や愛知環状鉄道の基盤整備が猿投地区の人口増につながった」と話した。また昭和末期から平戸橋周辺の象徴的な名所が描かれていた。この構想がリーマンショックで途絶えたことも説明された。

懐かしそうに見つめる人が多かった。平成19年につくられた「民芸の渓」基本構想図も紹介され、そこには勘八公園、前田公園、加藤唐九郎陶房跡など、平戸橋周辺の象徴的な名所が描かれていた。この構想がリーマンショックで途絶えたことも説明された。



猿投の祭り

各地区で愛され、受け継がれてきた伝統があります。

猿投まつり

四郷棒の手警固まつり



四郷棒の手警固まつり

三

河国の三宮に数えられる猿投神社の例大祭で10月第2週目に行われる。祭り全体の格式の高さが見どころで、とりわけ松明の明かりの中で行われる御神輿渡御は神秘的で、とても見応えがある。棒の手も盛んだが主役ではなく、格式高い祭りの一部という雰囲気だ。かつて江戸時代の最盛期には、尾

張、三河、美濃の3か国186の村から献馬・棒の手が奉納に来ていたという。猿投神社の広い境内をそういう目で見ると感慨深い。

愛 知県内で盛んな伝統芸能「棒の手」の中でも、おそらく最も盛大なのが四郷八柱神社で10月第2週目に開催される棒の手警固祭りだ。四郷地区には井上（見当流）、上原（鎌田流）、下古屋（藤牧檢藤流）、高町（見当流）、天道（鎌田流）の5保存会がある。演技が熟練する30～40歳代の中堅が祭りの企画や運営にも積極的に関わり、県指定文化財である棒の手を国指定文化財に格上げしようと盛り上げている。子ども剣士の数も多く、現代の最盛期と言つて良いだろう。

保 見町には、法被姿の男たちが棟木を担いで振る木遣り唄の風習が残っている。これは江戸時代から伝わっているもので、山から木を伐り出すときに歌われた労働歌がもとになっている。保見周辺には猿投神社の例大祭に関連して伝わったようで、今でも建物の新築や祭礼などで行われている。

保見町では平成元年に保見町芸能保存会を設立し、射穂神社の秋の例大祭で木遣り唄を奉納している。平成24年に田畠町神明社が竣工したときにも地元で木遣り唄が行われた。



まんとう万燈まつり

石 野の小峯町と芳友町だけに残る万燈祭りは、数百年は続いていると言われている。子どもたちが麦わらで作った束に火をつけて振り回し、「鬼でも餓鬼でもさあこい、さあこい」と先祖の靈を慰める盆行事だ。

近年は少子化で祭りを担う子どもの数が足りなくなってきたため、都市部の子どもに体験参加してもらいうながら、祭りを続ける手法も模索されている。



石野マ歌舞伎農村舞台公演



中

金町の岩倉神社には、回り舞台装置を備えた江戸時代の農村舞台が残っており、平成12年に市が有形民俗文化財に指定して改修が行われた。

多くの山村地域がそうであるように、石野の地歌舞伎も高度成長期に途絶えていたが、この改修をきっかけに地元有志で地歌舞伎を復活。保存会を立ち上げて子どもたちに伝承しながら、毎年10月の秋祭りに盛大な芸能祭りを開催している。農村舞台の前にはござが敷かれ、歌舞伎の他にも剣舞やカラオケ、消防団バンドの演奏なども行われており、満員の観客からはおひねりが飛び交ってにぎやかだ。



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けてきたものだ。かつては川船を横並びに連ねて浮かべ、その上にやぐらを組んでちょっとした舟に見立てた屋形を川辺に建てて行っている。水神ば



藤沢水神まつり

藤

沢町集落前の阿擧ダムが建っている場所には昔、岩盤で絞り込まれた跳子（ちょうどし）の瀬があり、筏流し（上流からの木材運搬）の難所中の難所だった。水神まつり（舟万灯祭り）は筏乗りの安全祈願のために、毎年お盆に続けて

猿投の土地にその名前を残した
6人の偉人の功績を紹介します。

猿投偉人伝



井上徳三郎 [井郷地域]
慶応3年～昭和11年（1867～1936）

井上町にその名を残す井上徳三郎は、「農業は、これこそ國の基、これを育てるべし」の信念のもと、両替商や株の売買で得た巨万の富を地域のために使った先人だ。明治44年に猿投村大字四郷字東山に広大な原野を購入して井上農場の開墾に着手。入植者招致や耕地整理を行い、創業25周年の昭和11年には開墾面積約100ヘクタール、60戸、約300人の集落になった。その功績が猿投村から認められ、「四郷字東山」の地名は「字井上」に改称された。

徳三郎は農場でどれた作物の出荷に鉄道輸送を考え、土地を提供して猿投駅を誘致。また寺部にあった郡立農学校が存続の危機に立たされた際には、入植者のために学校移設用地を提供し、県立猿投農学校（現在の猿投農林高校）が開校した。



梅村源次郎 [石野地域]
明治元年～昭和17年（1868～1942）

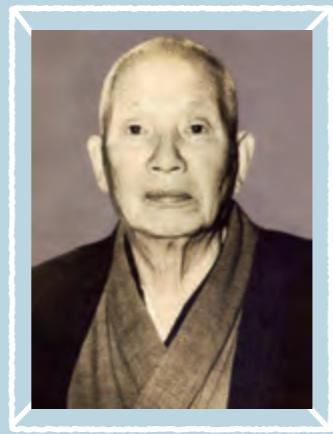
矢作川に架かる「広梅橋」にその名を残す梅村源次郎は、私財を投じて地域交通の改善に尽力した先人だ。

源次郎は加茂郡石下瀬村（現在の東広瀬）の生まれ。明治36年に梅村酒造を創業して成功したほか、石野村会議員や西加茂郡会議員としても活躍した。特に交通機関の改善に力を入れ、矢作川两岸の郡道の県道移管に努力した。また、猿投まで来ていた三河鉄道を西中金へ延伸するため尽力し、自ら梅源バスを経営して、矢作川上中流の山村の生活を向上させた。昭和5年には、それまで渡し舟で結ばれていた矢作川两岸の東広瀬（石野村）と西広瀬（猿投村）の間に近代的な橋を架けるため多額の資金を提供。この橋は広瀬と梅村の名から「広梅橋」と名付けられた。



本多静雄 [猿投台地域]
明治31年～平成11年（1898～1999）

本多静雄は日本有数の古陶磁研究家・収集家で、猿投古窯の発見者としても知られ、貴重な資料や出土品の収集研究により郷土文化の発展に貢献した先人。昭和52年に豊田市名誉市民となつた。本多は明治31年に西加茂郡上郷村花木（現在の豊田市花木町）に生まれ、京都帝国大学電気工学科を卒業後、逓信省に入省。技術官僚として手腕を發揮し、そのかたわら技術者の地位向上を求める「技術者運動」を展開した。戦後は、日本電話施設株や株エフエム愛知の創立など実業家として活躍する一方、古陶磁の研究家・収集家になつた。また各種民芸資料も収集して、豊田市民芸館の設立をはじめ民芸の振興を図った。平成28年度に一般公開を始めた平戸橋町の「民芸の森」は本多の屋敷跡だ。

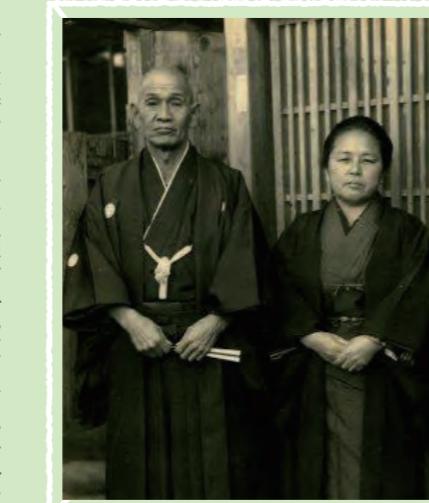


前田栄次郎 [猿投台地域]
明治7年～昭和36年（1874～1961）

前田栄次郎は明治7年に猿投村越戸に生まれた。東京で土木建築業を営みつつ、「我が富は、我が富にあらず。社会より預かりたる富なり。これを、効あるべく社会に還元するこ

とは、現時の我が使命なり」との想いを強く持ち、郷土の発展に思いを馳せて多くの地域貢献をした先人だ。

日本は産業振興とともに、観光事業の推進が重要と考えていた栄次郎は、莫大な私財を投じて平戸橋北方の洞ヶ峯一帯に公園を完成させ、「前田公園」と名付けた。他にも越戸の灰宝神社に神輿殿や宝物庫を新設するなど多くの寄進を行い、また、越戸消防組に最新型消防ポンプを寄付したり、猿投村に多額の寄付を行つたりもした。



清水鎮平 [石野地域]
慶応3年～昭和13年（1867～1938）

清水鎮平は、石下瀬村（現在の石野町）東枝下の豪農の長男で、村の助役や村長、合併で誕生した石野村の村長などを歴任した。

水田の少なかつた東枝下に水を引くため、鎮平は勘八山の成合川をせき止めて池を作り、サイフォンの原理で高台の東枝下へ水を引いて水田を開いた。今もそこには「鎮平」の小字名が残っている。また力石川と矢作川の合流点に橋を架け交通の便を良くしたことから、この橋も「鎮平橋」と名付けられた。

しかし、工事に私財を投じたため大きな借金を抱えて破産。一族の資産を処分しても清算できず、借金の一部は村人にもかかった。追われるよう郷里を出た鎮平は晩年を現在の豊田市喜多町の借家で過ごしたが、戦後の食糧難時代に東枝下では米の収穫が良く、鎮平は名誉を回復した。

豊田市の南西部に広がるのどかな田園風景は実は当たり前のものでなく、枝下用水を開削した西澤眞蔵ら先人たちの努力の積み重ねの上に成り立っている。西澤は滋賀県出身の実業家で、明治19年に出资者の一人として枝下用水の開削事業に関わり始めた。工事費用が当初見込みを大幅に超えて出资者たちが手を引き、同22年からは西澤一人による事業となつた。度重なる災害により用水路や堤防が壊れるなど、開削事業は極めて困難なものだったが、西澤は私財をなげうち巨額の借金までして工事を進め、明治30年に亡くなるまで用水の完成に力を尽くした。

枝下用水によって豊かな水がもたらされた受益地では、西澤の功績を讃えて顕彰碑を建て、今も水神として祭つて供養を続けている。



西澤眞蔵 [猿投台地域]
弘化元年～明治30年（1844～1897）

前田栄次郎は明治7年に猿投村越戸に生まれた。東京で土木建築業を営みつつ、「我が富は、我が富にあらず。社会より預かりたる富なり。これを、効あるべく社会に還元するこ

とは、現時の我が使命なり」との想いを強く持ち、郷土の発展に思いを馳せて多くの地域貢献をした先人だ。

日本は産業振興とともに、観光事業の推進が重要と考えていた栄次郎は、莫大な私財を投じて平戸橋北方の洞ヶ峯一帯に公園を完成させ、「前田公園」と名付けた。他にも越戸の灰宝神社に神輿殿や宝物庫を新設するなど多くの寄進を行い、また、越戸消防組に最新型消防ポンプを寄付したり、猿投村に多額の寄付を行つたりもした。

猿投の自然

猿投山をはじめとする豊かな自然は、美しい風景や果実の恵みなどを私たちにもたらしてくれます。



桃

猿投山麓の土壤は赤土で保水性があるため果樹に向いていると言われ、桃と梨は県内有数のブランド品だ。

桃（6月～9月）の生産量は猿投が愛知県下第1位。四郷町のJAあいち豊田選果場では

光センサーシステムで糖度、熟度、色、形状を瞬時に測定し、等級ごとに選別している。品質も折り紙付きだ。

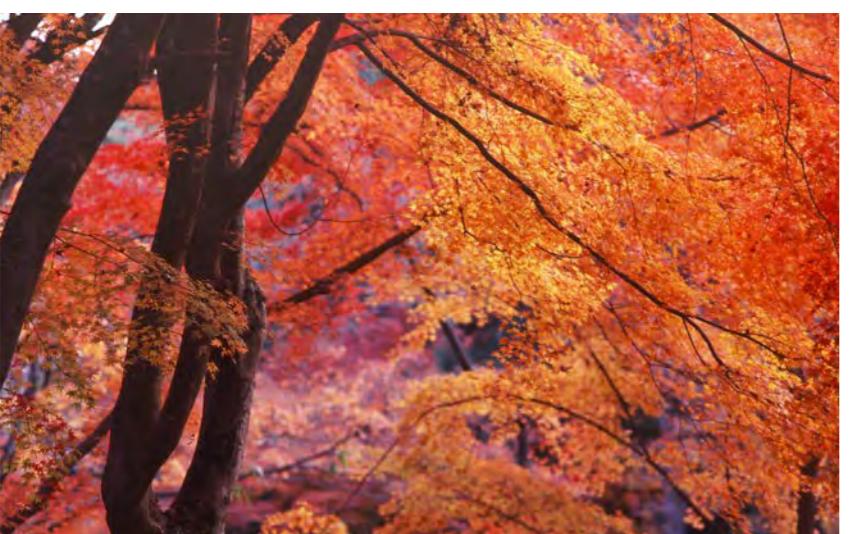
世界一のジャンボ梨 「愛宕」あたご



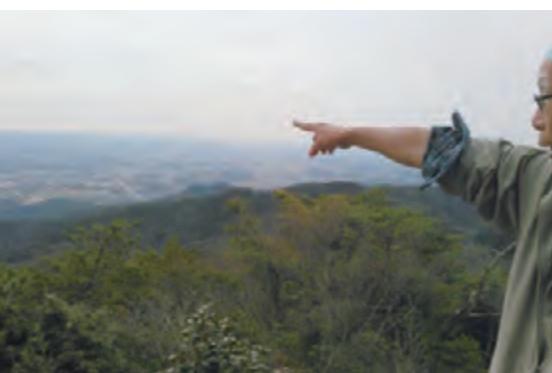
大悲殿の紅葉

猿投神社本社のすぐ北にある東昌寺大悲殿と駐車場の周辺は「猿投神社紅葉林」と呼ばれ、息をのむほど美しい紅葉スポットになっている。春から夏にかけての新緑も素晴らしい場所だ。すぐ近くにある「猿投神社山中観音堂」（大師堂）は豊田市内で最も古い、室町時代末期の建造物と言わっている。

梨（7月～12月）も猿投の特産品。なかでもシーズンの終盤に収穫されるジャンボ梨「愛宕」は11月に重量コンテストも開催され、3kgオーバーが出る年もある。平成23年のコンテストはギネスブックの公式認定員を招いて開催し、梅村和也さん（乙部町）の育てた2・9kgの愛宕が世界一大きな梨に認定された。



猿投山を象徴するツガの森



大岩展望台から見た景色



菊石は広沢川の川床に密集している



球状花崗岩（菊石）の拡大写真



この豊かな自然の中でも「猿投山」が猿投山たるゆえん」とまで言われる象徴的存在なのが、樹齢400年を超える巨木がたくさん残るツガの森だ。ただ老木が多く、この象徴的な森もあと100年持つかどうかだと言われる。これも自然界の成り行きだ。

猿投山は御船石、カエル石、屏風岩などの巨岩が多い花崗岩の山で、国指定の天然記念物「菊石」も花崗岩の一種だ。西側の山腹を流れる広沢川の河床の岩盤に直径4～8cmほどの菊花状の模様（花崗岩の結晶・球状花崗岩）が密集しており、フェンスで保護されている。猿投の地酒「菊石」にも使われている愛着ある名だ。

猿投山の山頂三角点は629mだが、実は最高点は638mある。東の宮の裏を登っていくとその場所に到達できる。

猿投山は古くから靈山として人々に崇められてきた山で、山麓には三河の三宮に数えられる猿投神社の本社が鎮座し、頂上近くに西の宮、東の宮がある。その森は日本でも珍しいと言われるほど植生が豊かで、150種もの樹木を観察でき、ドングリのなる仲間だけでも10種類以上ある。豊かな森は多くの生きものも育み、木から木へと滑空するムササビも多い。また、東海自然歩道として整備されており、高さも629mと手頃なため、市内はもちろん名古屋方面から多くのハイカーが集まる大人気の山だ。

猿投山

猿投山は古くから靈山として人々に崇められてきた山で、山麓には三河の三宮に数えられる猿投神社の本社が鎮座し、頂上近くに西の宮、東の宮がある。

その森は日本でも珍しいと言われるほど植生が豊かで、150種もの樹木を観察でき、ドングリのなる仲間だけでも10種類以上ある。豊かな森は多くの生きものも育み、木から木へと滑空するムササビも多い。また、東海自然歩道として整備されており、高さも629mと手頃なため、市内はもちろん名古屋方面から多くのハイカーが集まる大人気の山だ。

猿投神社

文書類を多く所蔵しており、とくに文化財は群を抜いて豊富。三河三宮に数えられる。

櫻鳥糸威鎧大袖付(かしどりいとおどしよろいおおそでつき)①
——国指定重要文化財・東京国立博物館保管

太刀銘行安(ゆきやす)②
——国指定重要文化財・市郷土資料館保管

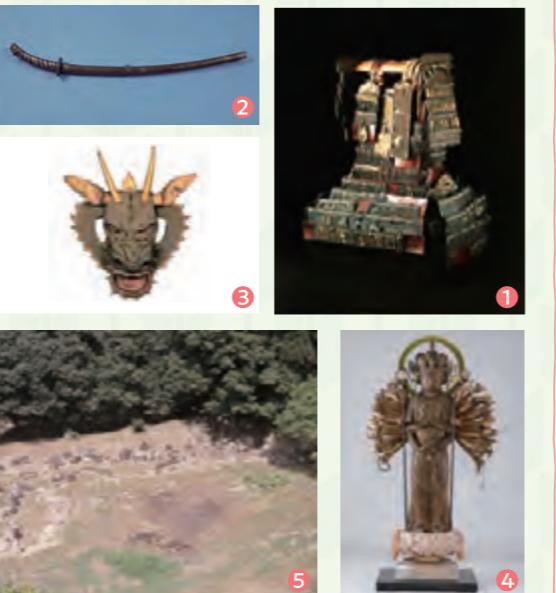
黒漆太刀(くろうるしたち)
——国指定重要文化財・東京国立博物館保管

正一位猿投大明神扁額
——県指定有形文化財

革製竜頭馬面③
——県指定有形文化財

木造千手観音立像④
——市指定有形文化財・猿投神社山中観音堂保管

旧龍性院庭園⑤
——国指定名勝



舞木廃寺塔跡

舞木町南東部の丘の上1,989m²が国の史跡に指定されている。塔の心礎と3個の礎石が残され、多数の瓦や須恵器の破片が出土している。奈良時代のものとされる。



猿投の史跡・文化財

猿投地区には多くの文化財や史跡が点在しており、往時から繁栄していたことがしのばれる。

伊保西古城跡

標高119メートルの小高い山の上にあり、腰曲輪、堀切、土塁などが残る。瀬戸に至る瀬戸街道と名古屋に至る飯田街道を一望できる要衝の地で、戦国期には松平氏と織田氏の間で攻防が繰り返されたと伝えられる。



猿投山

猿投神社

伊保西古城跡

舞木廃寺塔跡

旧井上家住宅西洋館

旧三河広瀬駅

岩倉神社農村舞台

旧西中金駅

長篠・長久手合戦図屏風

馬場瀬古墳群



長篠・長久手合戦図屏風

四郷町の浦野酒造に伝来、寺部の渡邊家からの拝領品。尾張藩付家老・犬山藩成瀬家に伝来する長篠の戦いと長久手の戦いを一対で描いた長篠・長久手合戦図屏風の写本。渡邊守綱の活躍が描かれる。現在は陣中町の市郷土資料館に所蔵。市指定有形文化財。

馬場瀬古墳群

平戸橋町馬場瀬から勘八町の市街地一帯を見下ろせる場所に8基の古墳がある。7世紀に造られたとされ、8号墳には横穴式の石室が残されている。調査により須恵器や耳環(金環)などが出土している。市指定の史跡。



旧井上家住宅西洋館

木造2階、ベランダ付きの西洋館。明治10年代に名古屋で開かれた博覧会の貴賓館として建造。博覧会の終了後は移築されて銀行として使われ、昭和3年には井上農場の迎賓館として再び移築。平成元年には民芸館へ移築され、貴重な明治建築物として保存している。国の登録文化財。



名鉄三河線旧三河広瀬駅舎・プラットホーム

名鉄三河線の旧駅。昭和2年に三河鉄道として開業、平成16年3月末の廃線に伴い廃止。現在は、地域団体が土・日曜日に野菜などの直売や、駅舎で五平餅を提供している。国の登録文化財。

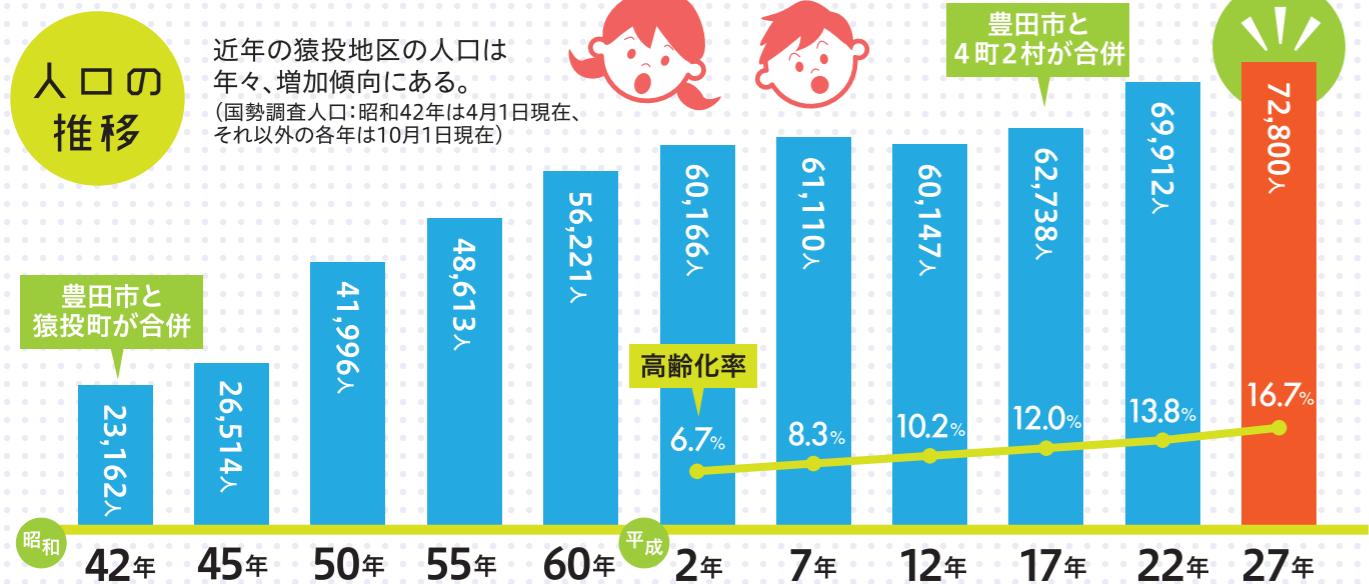


名鉄三河線旧西中金駅舎・プラットホームと岩倉神社農村舞台

駅舎等は名鉄三河線の旧終着駅。昭和3年開業、平成16年3月末の廃線に伴い廃止。現在は、西中金ふれあいステーションとして、地域団体が土・日曜日にコーヒー等を提供している。旧駅舎北西の岩倉神社境内には、文化5年(1808年)の建築とされる農村舞台があり、回り舞台や太夫座、楽屋等を備える。平成13年に修理してからは毎年、歌舞伎公演が行われる。駅舎等は国の登録文化財。農村舞台は市指定有形民俗文化財。

データで見る猿投

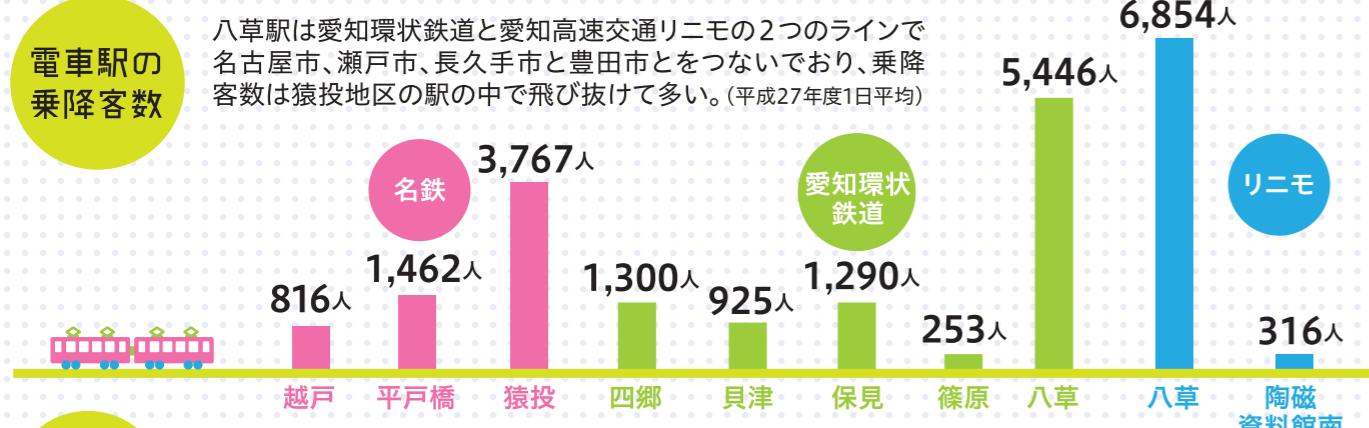
人口の推移



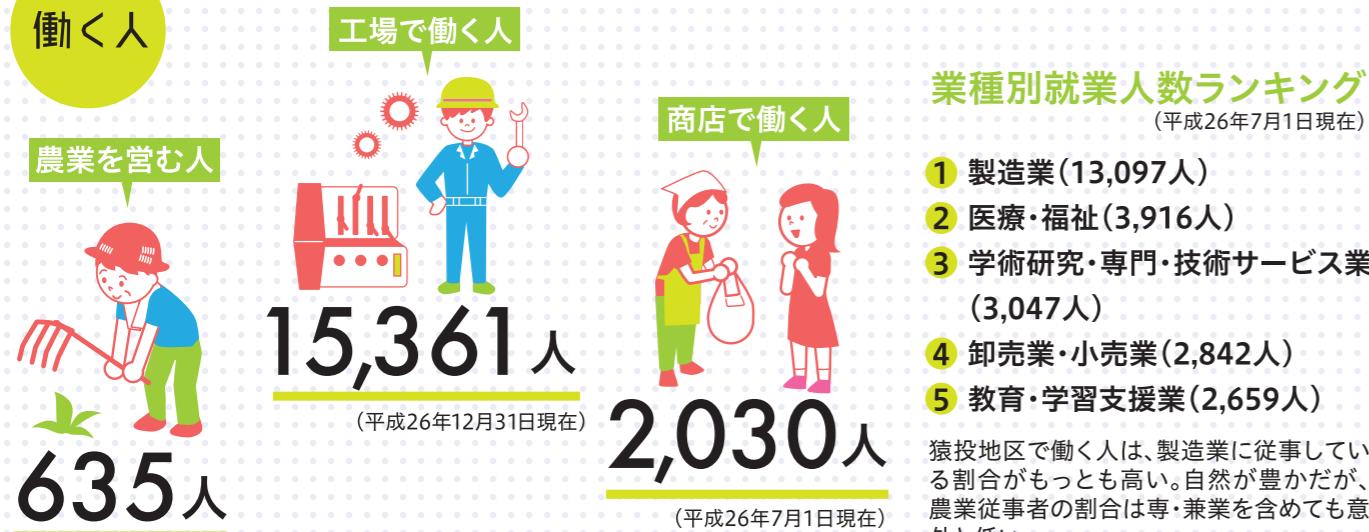
標高



電車駅の乗降客数



働く人

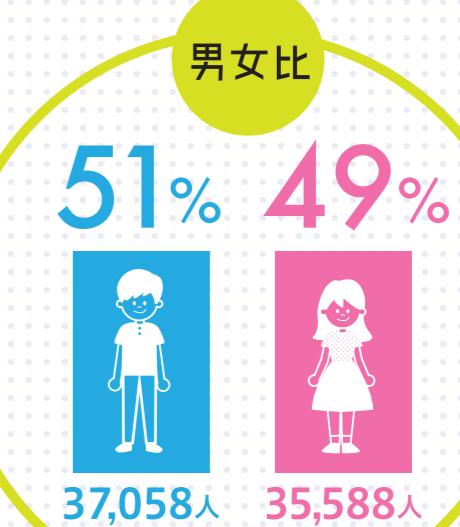


(平成27年2月1日現在)

(平成26年12月31日現在)

(平成26年7月1日現在)

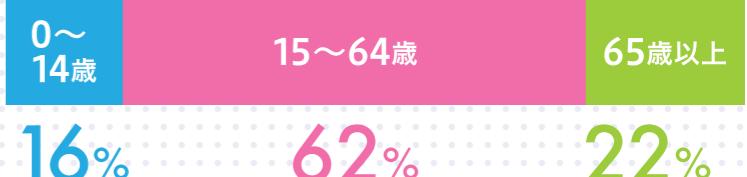
人口 72,646人



猿投地区の人口は平成30年4月1日現在で72,646人。豊田市全域の人口の約17%を占める。

平均年齢 約42歳

平均年齢は42歳。子どもの割合が低めで、働き盛りの世代が多い。



面積 117.05km²

猿投地区 豊田市

豊田市全体の約13%

人口密度 620人/km²



地区ごとの人口に差の大きい豊田市。猿投地区の人口密度は620人/km²と、市内ではやや低めの数値。



豊田市の西端に位置する猿投地区。保見地域は瀬戸市・長久手市・日進市・みよし市と、猿投地域は瀬戸市と隣接している。





未来のさなげ(90~95ページ)に応募して
いただいた全員の絵が掲載されています。

みなさまと共に快適をつくりあげます



土木建築・リフォーム、各工事の請負・企画・設計、不動産の企画・開発・分譲・仲介など

 **藤本建設株式会社**

〒470-0343 豊田市浄水町伊保原465-1 TEL(0565)45-1812 FAX(0565)45-7364
<http://www.fujimoto.ne.jp/>



太啓建設株式会社

〒471-0071
愛知県豊田市東梅坪町10丁目3番地3

TEL (0565) 31-1271
FAX (0565) 31-9173
<http://www.taikei-con.co.jp>

暮らしに、街に、
新しい価値を届け続けるために。



YAHAGI ENGINEERING

 矢作建設工業株式会社

【本社】名古屋市東区葵三丁目19番7号 TEL:052-935-2351 <http://www.yahagi.co.jp> [矢作建設工業]
【東京支店】東京都中央区湊2-2-5 【東北支店】仙台市青葉区宮町2-1-76 【大阪支店】大阪市中央区島町2-1-10
【広島支店】広島市東区光町1-9-28 【九州支店】福岡市中央区天神3-10-1



QUALITY OF TIME AND SPACE
すべてのモビリティーに“上質な移動空間”を

 トヨタ紡織



浄化槽工事一式
浄化槽維持管理及び清掃
グリストラップ清掃



(有)猿投衛生社

豊田市越戸町下能田219
TEL.(0565) 45-0676
FAX.(0565) 45-3644



净化槽清掃業許可 第202号
净化槽保守点検業許可 第46号
一般廃棄物収集運搬業許可証 第2002号
産業廃棄物収集運搬業許可証 第02300133778号 認証番号 0011150

法面保護・造園・土木・各種工事設計・施工 豊緑化技研株式会社

快適な環境は「自然と人間」の共存するまち

代表取締役 杉本龍則

〒470-0372 愛知県豊田市井上町8-116
TEL. 0565-45-0335 FAX. 0565-45-0349

RENOVATION STUDIO MEIDAI

リノベーションスタジオ メイダイ



建築士と叶える
理想の住まい

株式会社メイダイ 豊田市青木町1-16
TEL. 0120-45-5840 リノベ メイダイ 検索

H 内科・小児科・消化器内科・予防接種・健康診断 平戸橋医院

地域の皆様のために開かれた医院です。
気軽に受診をしてください。

院長 近藤貴史

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
09:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
17:00~19:00	○	○	×	○	○	×	×

TEL 050-5865-2779
WEB <http://b.inet489.jp/hrt1155/>

〒470-0331 豊田市平戸橋町石平74
TEL: 0565-45-1155 FAX: 0565-45-9686

地域に根ざし、
人の命と土の文化を育みます。

JAあいち豊田

〒471-8511 豊田市西町4丁目5番地
TEL. 0565-31-2326(代)
FAX. 0565-34-1369

ホームページ
<http://www.ja-aichitoyota.or.jp/>

豊田信用金庫



心と心のおつきあい、
すべては地域発展の為に。

豊田市	刈谷市
本店営業部 0565-31-1616	土橋支店 0565-29-1181
若宮支店 0565-32-3015	保見支店 0565-48-1200
山之手支店 0565-28-3456	堤支店 0565-53-6111
トヨタ町支店 0565-29-2626	田中支店 0565-24-5311
高橋支店 0565-89-1131	勝岡支店 0565-76-2321
上郷支店 0565-21-1151	足助支店 0565-62-0050
高岡支店 0565-52-2311	稻武支店 0565-82-2551
神池支店 0565-89-2351	0565-24-5555
朝日支店 0565-33-9331	大林支店 0565-89-6611
青木支店 0565-45-8611	野見山支店 0565-45-2230
猿投支店 0565-45-0551	井上支店 0565-36-3111
八幡支店 0565-52-0011	下市場支店 0565-33-0515
陣中支店 0565-32-5161	元町支店 0565-46-7281
みよし市	清水支店 0565-32-5161 インターネット 0120-153-088
三好支店 0561-32-2311	三好北支店 0561-36-3551
岡崎北支店 0564-25-6981	岡崎市
岡崎支店 0564-25-0571	岡崎支店 0564-25-0571

本店 〒471-8601 愛知県豊田市元城町1丁目48番地
TEL. 0565-31-1616(代表)

詳しくは [とよしん](http://www.toyoshin.co.jp/) 検索 <http://www.toyoshin.co.jp/>

天野屋 茶房 あまの

豊田市青木町 1-70-3
TEL. 0565-45-2696



水土里ネット
豊田

豊田土地改良区

〒471-0831 豊田市司町3丁目8番地
TEL 0565-28-2855 FAX 0565-28-2858